

マックス株式会社 2024 年3月期第1四半期決算説明会 質疑応答録

この質疑応答録は、2023 年 7 月 31 日（月）に開催したアナリスト、ファンドマネージャ向け決算説明会電話会議にて、ご参加の皆様からいただいた質問とその回答の概要です。

■インダストリアル機器部門について

〔質問 1〕

コンクリート構造物向け工具の第1四半期売上実績を教えてください。

〔回答 1〕

コンクリート構造物向け工具の第1四半期の売上実績は、国内13億円、海外63億円となりました。国内・海外合計は76億円で8%の伸長です。

前年同期の実績は、国内12億円、海外58億円でしたので、国内は6%の伸長、海外は9%の伸長となりました。

機械と消耗品でみると、国内の機械は11%の減少、消耗品は10%の伸長となりました。海外の機械は2%の減少、消耗品は11%の伸長となりました。

数量ベースでは、北米は機械11%増、消耗品11%増、欧州は機械32%減、消耗品12%減、国内は機械12%減、消耗品3%減となりました。

〔質問 2〕

欧州市場の状況について教えてください。

〔回答 2〕

欧州は、景気の先行き不透明感から住宅市況の悪化が顕著となり、ディーラーからのセールアウトも厳しい状況が続いています。特に主力市場であるドイツやスウェーデンなどで販売が停滞しています。今後についても、やや厳しい市場環境が続くものと想定しています。一方で、非住宅市場は国によっては比較的堅調であることから、活動エリアなどを見極めながらマーケティング活動を進めていく計画です。

■全社状況について

〔質問 3〕

売上総利益率が向上した要因と第2四半期以降に想定される売上総利益率の水準を教えてください。

〔回答 3〕

売上総利益率が向上した主な要因は、価格転嫁の推進、円安による為替影響、国内事業の収益性改善です。以上のように、第1四半期の売上総利益率の向上は、一時的な要因に限られないため、第2四半期以降もある程度の水準を維持できるものと考えています。

〔質問 4〕

業績予想修正について、2024 年 3 月期全社計画の営業利益が 13 億円の上方修正となった要因を教えてください。

〔回答 4〕

国内事業の収益性改善、円安による為替影響に加えて、荷発費の低減などが主な要因です。また、為替影響については第 2 四半期以降の想定為替レートを見直しました。営業利益に対する為替感応度は、年間換算で米ドル 50 百万円/円、ユーロ 90 百万円/円と試算しており、年間換算額の 4 分の 3 程度が利益に貢献することを見込み、利益面での上方修正を計画しています。一方で、欧州について不透明な景気見通しにより回復が遅れることを想定しているため、売上高は据え置いています。今後の業績の進捗状況に応じて、適宜見直しを行う予定です。

〔質問 5〕

インダストリアル機器部門の売上高の伸長幅よりも利益の伸長幅が大きい理由を教えてください。また、上期と下期での状況の違いなど、今後の見込みを教えてください。

〔回答 5〕

価格転嫁や為替影響に加えて、国内事業の収益性改善、荷発費の低減などの主に利益に影響する要素がインダストリアル機器部門に大きく寄与したことで、インダストリアル機器部門のセグメント利益率を引き上げました。第 2 四半期以降は、執行がやや遅れている先々の事業成長を見据えた戦略的投資の執行や一時的な生産調整による荷発費低減分を除いた計画としています。

〔質問 6〕

戦略的投資は計画に対する進捗は遅れているものの、前年比では減少しているということでしょうか。

〔回答 6〕

前年比で若干の減少です。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する内容は、当社が 2023 年 7 月 31 日現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があることをご了承ください。